第１編　改定計画のめざすもの

本計画では、2050 年の「温室効果ガス排出量実質ゼロ」実現に向け、SDGs の考え方を活かし、経済、社会、環境が抱える問題の同時解決を念頭におき、地域の枠組みはもちろんのこと、より広い範囲での連携や協力のもとで、取組みを推進していきます。

2050 年の温室効果ガス排出量実質ゼロを達成した姿を「ゼロカーボン おおさか」とし、大阪の成長につながる脱炭素社会の実現をめざします。

また、国における 2030 年度目標の引き上げや IPCC が示す最新の科学的知見、COP26 で合意された世界の気温上昇を 1.5℃に抑える努力の追求、グリーンリカバリーや脱炭素経営の進展など、脱炭素に向かう国内外の潮流を踏まえ、2050 年からの「バックキャスティング」の考え方により 2030 年度目標を設定し、皆さまと一緒に目標達成に取り組みます。

１　2050 年　大阪市のめざす社会の姿

2050 年の「ゼロカーボン　おおさか」が実現された社会は、様々な取組みが実を結び、今の「ひと」や「しごと」もがらりと変わったまちとなっていることでしょう。

大阪市は 2050 年のまちの姿を子どもから高齢者まであらゆる世代や様々なステークホルダーとも共有するとともに、様々な革新的な環境技術がいち早く取り入れられるような環境を整備し、率先して導入できるよう、すべての主体の参加と連携・協働のもとで取組みを進めてまいります。

また、私たちの足元だけではなく、持てる知識や技術を十分に活用し、様々な地域で「ゼロカーボン」が達成できるように貢献するなど、SDGs 未来都市として持続可能な社会の構築に向け取組みを進めてまいります。

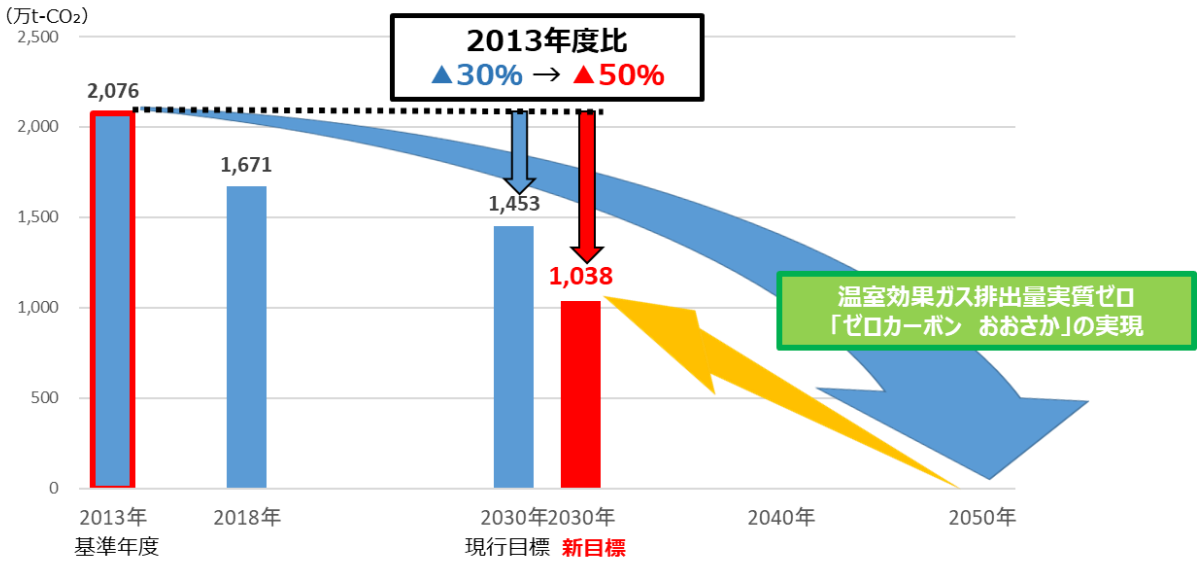
図　2050 年の「ゼロカーボン　おおさか」がめざす姿

２　改定計画の目標

2050 年の「ゼロカーボン　おおさか」の実現という未来に向け、2030 年度の温室効果ガス排出量削減目標を設定する「バックキャスティング」により、次のとおりとします。

2030 年度目標　2013 年度比 50%削減

図　2030 年度と 2050 年における削減目標



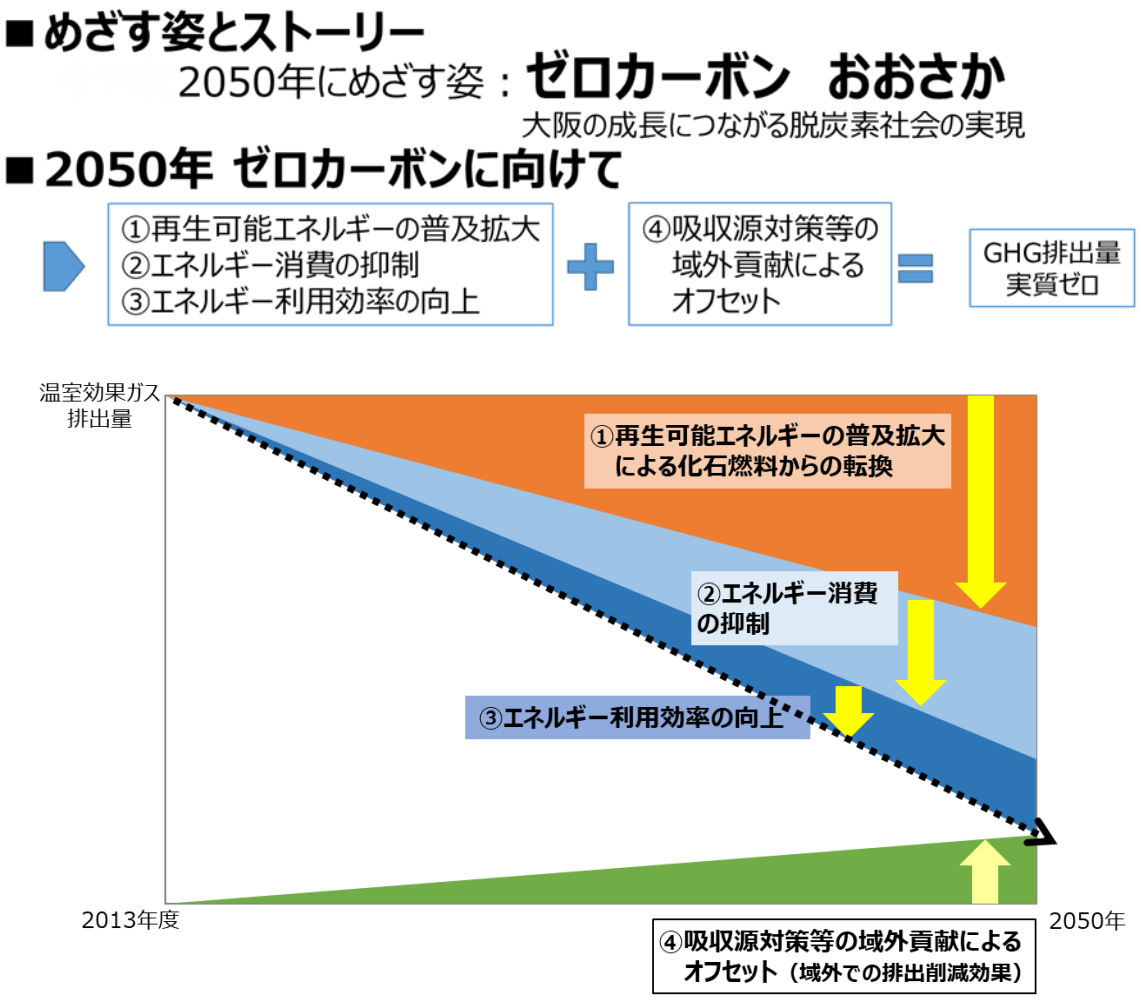
この目標の達成に向け、これまで取り組んできた施策を着実に実施するとともに、あらゆる主体の方々が主役となり環境イノベーションが進展していくよう、市民・事業者の皆さまの意識改革と行動変容等に取り組んでいきます。

3　2050 年目標の達成に向けたイメージ

市域における温室効果ガス排出量について、再生可能エネルギーの普及拡大による化石燃料からの転換、徹底したエネルギー消費の抑制とエネルギー効率の向上によるエネルギー使用量の削減を行い、それでも削減しきれないものを吸収源対策等の域外貢献で補う（オフセット）により、実質ゼロの目標達成をめざします。

大阪市は、「ゼロカーボン おおさか」の実現に向け、すべての主体が自主的かつ積極的に目標の達成に向けた取組みを展開できる仕組みづくりや脱炭素社会を見据えた都市インフラなどの基盤整備を着実に実施するとともに、2050 年に向けた非連続なイノベーションが芽吹き、育まれやすい場の創造など、基礎自治体として取組みを展開します。

また、気候変動の適応についても、あらゆる施策に「気候変動への適応」の視点が組み込まれ、適応の主流化が図られるよう、取組みを進めてまいります。



あらゆる施策へ「気候変動への適応」の視点を組み込むことによる適応の主流化